

平成30年住生活総合調査結果の概要

■調査の概要

本調査は、市民の住宅及びそのまわりの住環境に対する評価、住宅改善計画の有無と内容、住宅建設または住み替えの実態等を把握するために、昭和35年から国土交通省住宅局が実施している全国調査に合わせて、昭和48年から5年ごとに実施しています。平成15年までは、「住宅需要実態調査」として実施しており、平成20年の調査からは、「住生活総合調査」と名称を改めて実施しています。

本市では、「住生活総合調査」の解析にあたり、国の集計方法を参考に統計表を作成し、その後解析を行い、今回その調査結果を公表するものです。

- ・調査対象数：北九州市で8,712世帯を対象
- ・有効回答数：4,342票（回収率：49.8%）
- ・調査日：平成30年12月1日

■結果の概要

※（ ）内は、本市の平成25年調査（前回）結果、㊤：平成30年全国調査の結果を記載

1. 住宅及び居住環境の評価

●住宅・居住環境に関する評価は、不満率が減少し満足度が上昇

- | | | | |
|------------------|-----|---|-----------------------|
| ①住宅・居住環境に対する総合評価 | 不満率 | = | 21.2% (21.1%)、㊤：21.5% |
| ②住宅に対する評価 | 不満率 | = | 25.2% (25.2%)、㊤：23.1% |
| ③居住環境に対する評価 | 不満率 | = | 26.8% (25.6%)、㊤：27.8% |

●プライバシーの確保に対する満足率が高く、高齢者等への配慮、地震時の安全性に対する不満率が高い

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| ①不満率の低い項目（住宅） | ②不満率の高い項目（住宅） |
| ・主な居室の採光 不満率=21.1%、㊤：23.3% | ・地震時の安全性 不満率=46.6%、㊤：43.6% |
| ・広さ・間取り 不満率=21.9%、㊤：22.7% | ・高齢者などへの配慮 不満率=45.3%、㊤：47.2% |
| ・プライバシーの確保 不満率=25.0%、㊤：25.6% | ・騒音に対する遮音性 不満率=44.6%、㊤：42.9% |

●水害・津波の受けにくさに対する満足率が高く、騒音・大気汚染などの少なさに対する不満率が高い

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| ①不満率の低い項目（住環境） | ②不満率の高い項目（住環境） |
| ・水害・津波の受けにくさ 不満率=18.7%、㊤：23.8% | ・騒音・大気汚染などの少なさ 不満率=38.1%、㊤：29.7% |
| ・通勤、通学などの利便 不満率=19.0%、㊤：24.2% | ・火災の延焼防止 不満率=35.7%、㊤：38.4% |

●住宅及び居住環境に関して重要と思う項目

1位「治安」(40.2%)、2位「日常の買い物などの利便」(39.1%)、3位「日当たり」(31.3%)

●住居費負担に対する評価

住宅ローン・家賃など住居費の家計に与える負担感は「家計への影響が大きい」とする世帯が約6割と、相変わらず高い。

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| ①家における住宅ローンの家計に与える影響 | ②借家における家賃等の家計に与える影響 |
| 「家計への影響が大きい」世帯の割合=62.8% (61.2%) | 「家計への影響が大きい」世帯の割合=70.7% (61.2%) |
| 「家計への影響が少ない」世帯の割合=37.3% (38.8%) | 「家計への影響が少ない」世帯の割合=29.3% (38.9%) |

2. 最近5年間の居住状況の変化

- 最近5年間の「住み替え」「建て替え」「リフォーム」をしなかった世帯は51.1%
- 最近5年間で「住み替え」「建て替え」「リフォーム」のいずれかを行った世帯は全世帯の42.1%。うち、住み替えを行わずにリフォームを実施した世帯は23.9%で前回より急増。
 - ①最近5年間（平成25～30年）で居住状況に変化のあった世帯は全世帯の42.1%（40.2%）、㊦：40.8%
 - （内訳）・住み替えた =17.7%（20.7%）、㊦：22.9%
 - ・建て替えた =0.5%（0.5%）、㊦：0.8%
 - ・リフォームした =23.9%（19.0%）、㊦：22.1%

3. 今後の住まい方の意向

- 5年先以降も含む今後または将来の住み替え意向がある世帯は全世帯の19.6%で、前回調査と変化なし。
- 今後5年以内に住み替え・改善の意向のある世帯は、全世帯の17.6%。うち、リフォームを行う意向のある世帯は4.8%
 - ①今後、住み替え、建て替え、リフォームの意向のある世帯は、全世帯の17.6%（16.8%）
 - （内訳）・できれば住み替えたい =12.4%、(11.2%)
 - ・リフォーム・建て替えどちらも考えている =0.3%、※平成30年より追加
 - ・建て替えを考えている =0.1%、(0.4%)
 - ・リフォームを考えている =4.8%、(5.2%)

4. 家族構成別に見た住宅及び居住環境の評価と住み替え・改善意向

- 子育てにおいて住宅や居住環境で重視するのは、治安。
 - 1位 「治安」53.5%、㊦：47.7%
 - 2位 「通勤・通学の利便」45.2%、㊦：45.7%
 - 3位 「日当たり」39.8%、㊦：43.4%
- 高齢者世帯が住宅や居住環境で重視するのは、日常の買物などの利便
 - 1位 「日常の買物などの利便」36.6%、㊦：34.3%
 - 2位 「治安」29.6%、㊦：30.8%
 - 3位 「地震時の安全性」28.2%、㊦：31.3%
- 高齢期の子との住まい方の意向は、「近距離希望」が21.4%で、前回調査より減少
 - ①高齢期の子との住まい方の意向
 - ・こだわりはない=35.9%（38.9%）、㊦：33.5% ・近距離=21.4%（25.7%）、㊦：21.7%
 - ・子と同居する=7.9%（9.1%）、㊦：11.6%
- 高齢者のいる世帯における要介護者等がいる世帯の住宅・居住環境に関する評価は、不満率が21.9%
 - ①要介護者がある世帯の住宅・居住環境に対する総合評価 不満率 = 21.9%
 - ②要介護者がいない世帯の住宅・居住環境に対する総合評価 不満率 = 24.0%

5. 現住居以外に所有している住宅

- 現住居以外に所有している住宅がある世帯は、10.8%。その利用状況は、「親族居住用」が多数
 - ①現住居以外に所有している住宅がある=10.8%、㊦：15.2%
 - ②利用状況の上位
 - ・親族居住用=58.4%・賃貸用=32.2%

●借家に居住している世帯において、将来の住宅相続の可能性のある世帯は 13.8%

①将来の住宅相続の可能性の有無

- ・相続する可能性がある=13.8%、⊕：20.8% ・相続する可能性はない=49.4%、⊖：43.9%
- ・相続するか、わからない=25.4%、⊕：28.4%